

リレーエッセー
大きくなあれ
Vol.43

ナイトウオークラリー

帰依龍照



昨年末の十二月二十七日、二十八日の両日、毎年恒例の「沖縄尚学高等学校附属中学校一年五組・六組合同行事：ナイトウオークラリー」が行われた。首里石嶺公民館を起点に、一日橋と与那原町、ハートライフ病院前、西原町、浦添運動公園、首里石嶺公民館の全距離二十五キロメートルのコースだ。テーマは「十三歳・情熱、実戦として飛躍」——十三歳の若者として情熱を持って物事にトライ（実践）すると共に、達成感を持って新たな年（二〇〇三年）で飛躍してもらいたい。

当日は前日からの雨天が出発直前まで続き、多くの関係者を心配させたが、五組担任の先生の「心配いりません。過去、このナイトウオークラリーの行事で雨が降ったことは一度もありませんから」の言葉通り（？）雨も上がり、最高の気象条件となった。本来は五組の恒例行事であったものに、私たち六組の生徒・父兄が便乗さ

せていただいた形となったが、各打ち合わせに参加させていただくうちに、この行事の持つ意義について深く考えさせられたり、年ごろである中学一年生の子どもたちとの交流の大切さを痛感した。

有名な一休宗純和尚が幼少の折、お師匠様から庭に生えている曲がりくねった松の木を

「心静かにこの松の木を真つすぐに見よ」

と教えられ、多くのお弟子方は「お師匠様、曲がった松を真つすぐに見ることはできません」と首をひねりながら答える中、「お師匠様、見えました。この松は曲がっています」と答えられたエピソードを思い出した。

沖縄そばの好きな人は、道案内をする時に

「住職、その道路を道なりに行

きますと、信号機の右に沖縄そばの看板がありますから、そこを右折して、次の交差点の手前においしい沖縄そばの店がありますから、その五軒隣の私の自宅です」と説明してくれる。お酒の好きな人は酒屋で、若者はコンビニエンスストアで。同じ景色を見ながらも、各々個人の興味あるもので、その場所を明確にしようとする。曲がっている松をまっすぐ（素直）に曲がっていると見詰め、車で通り過ぎればただの道路沿いの景色も、歩行することにより、見過ごしていたものを新たに発見していく。

人間形成の中でも大切な中学生という時期、子どもたち自身も夜を徹してのナイトウオークラリーに何かを学んでくれたことである

学校からの案内状にあった「約

このコーナーは、日々こどもたちとかかわる方のエッセーです。
（執筆者）
○帰依龍照（住職）
宮城英雅（小児科医）
平良辰浩（学童クラブ指導員）
下地直也（保育士）
真栄城栄子（すぬち平和文化館）
新里恒彦（ケルン苑主管）

ご意見をはがきかファックス、Eメールで編集部までお寄せください

遊び場スケッチ
42
県営高麗団地前広場

オンヤペリは
山田大夢くん
(具志川市立赤道小学校三年生)

山田大夢

俺は一年生から野球部、赤道中央タイガース。好きな選手はイチロー選手。サッカーは足でできるだけだからおもしろくないけど、野球は手を使って投げたり走ったり、いろんなことできるからおもしろい。

野球の練習がないときは、こうやって団地のみんなでいつも遊んでる。小さいころからずっといっしょだからな。いつも暗くなるまで七時ぐらいまで遊んでる。

いつも男ばかりで遊んでるけど、俺好きな女の子いるよ。普通の女の子だけ俺はかわいいと思う。でも、誰だかは教えない…。俺たちの中でモデル女の子は、①かわいい ②優しい ③頭がいい ④足が速い そんなのかな（笑）。

四年生の目標は、跳び箱十段飛べるようになること!!

今日はみんなでキックベース遊び